

熊惑クラブ

熊惑クラブ 元キャプテン

秋元永三



全国の注目を集めた埼玉博覧会の開催跡地に、「西の花園」に対して「東の熊谷」として名乗りを上げ、本格的なラグビー場が建設されています。完成の暁には、ここに集い、鮮やかなラグビージャーニーを着た若者が素晴らしいプレーを繰り広げることでしょう。彼らの若さを見るにつけ、年月の経過の早さを感じさせられます。私が、ラグビーという奥の深い、男性的なスポーツに出会ってはや30年余が経ってしまいました。思い起こせば、当時のラグビーは全く初歩的なもので、現在のラグビーと比べたら、それは「オールブラックス」と我ら「熊惑クラブ」との違いがあります。それを思っても、森先生始め、諸先輩方の並々ならぬ努力と情熱が、熊谷のラグビーをここまで発展させて下さったのだと感謝にたえません。かくいう私も、熊商時代に出会ったラグビーの魅力に取りつかれ、社会人となり頭髪に白いものが混じり始めた今でも、本業とは別の意味でのライフワークとしてラグビーを愛し続けている一人であります。あのボールをグラウンド以外の場所で見かけても、つい手にし、自分の体力を試してみたい衝動にかられるラグビー馬鹿となっていたため、今から20年前、熊谷市に国体のラグビー場が本決まりとなった時は、少年のように喜んだものでした。その役員に従事し国体の成功を祈るあまり、本業を忘れ没頭していました。全国のラグーマンが熊谷に集結し、所狭しと暴れ回った様子を目にした喜びは、私の生涯忘れ得ない思い出となりました。

時に現在訪れる菅平の姿は、その時の熊谷市を思い起こさせてくれる素晴らしいラグビータウンとなっています。この国体の経験は私以外にも、たくさんの人達の共感を呼び、この感動を再び持つべく、既におじさんとなってしまった仲間達が集うことになりました。国体跡地の利用を引き継ぎ、年長者もボールを手にするチャンスに恵まれ、幸福感に浸ったものでした。そうはいっても、皆各々仕事を持っているため、どうしても練習がままならず、ポジションを若手に譲るはめになるの

は悲しい事実です。そこで誕生したのが、「40にして惑わず」からとった「熊惑クラブ」です。既に、東京「不惑クラブ」、群馬「惑惑クラブ」、神奈川「神惑クラブ」等と対戦させて頂きましたが、情けなくも全く相手にならず、いつも大敗でした。しかし、ミーティングが我々のメインであり、そこで大いに楽しませて頂いたので充分でした。

我々年寄とは反対に、この頃、熊谷工業高校が森先生の好指導により全国大会出場の常連となり、大いに我々を発奮させてくれました。かくいう私も、心だけは熊工の一員となり生徒の遠征試合の移動や、差し入れに協力させて頂き、生徒と一緒に大いに若き血を燃やしたものでした。来年には、ラグビー協会の諸先輩方のおかげで、熊谷市に県営ラグビー場が完成する運びとなり誠に喜ばしく思います。私もラグビーファンとして指導のご尽力に感謝する次第です。まして、高校野球の甲子園にも勝るとも劣らないラグビーの熊谷が、単に高校生のみならず、社会人、大学生、少年達の心の故郷にならんことを祈念してやみません。

末筆ながら、商人の端くれとして願うことは、ラグビーをきっかけとして、昔の活気のあった熊谷をよみがえらせ、ラグビーと勢いを競うような商業都市に戻したいものです。生意気な意見を申すようですが、あえて提言させて頂けますれば、熊谷市役所が母体となる職員ラグビーチームの誕生はいかがでしょうか。現に秋田市役所、京都市役所チームの存在は町ぐるみの応援を受け、ラグビー界をにぎわしています。こういった事実を踏まえ、魅力あるラグーマンを市政に参加させることが市の活性化につながると信じてやみません。どうぞ、ラグビーの一ファンのしたない願いを考えてみてはいただけないでしょうか。